

令和元年8月7日 吹田市

1. 事業目的

イオン・環境省・吹田市の協力により、市民・消費者にシェアバッグ、紙袋、マイバッグ等の複数の代替手段を提供することでワンウェイプラスチック（レジ袋等）の排出抑制を加速化する、新たな地域モデルのあり方を実証する

2. 事業イメージ（イオン、吹田市）

【現状】



【実証モデル】



① シェアバッグ

- 市内でシェアされるエコバッグを店舗レジで無償貸出し。
- 店舗、駅、大学、庁舎などに回収拠点を設置、回収したバッグを繰り返し利用

② 紙袋

- 衣料・住余の小型プラスチック袋の代替えとして紙の平袋で提供（プラスチック削減への協力呼びかけ）

③ マイバッグ

- レジ袋の代替となるマイバッグ、マイバスケットの展開強化、販促キャンペーン



紙袋 紙袋

3. 効果検証（環境省主体、イオン協力、吹田市に情報提供→水平展開）

- ① 定量効果等の把握：レジ袋辞退率の変化（ビフォ・アフター）、利用（回）数（シェアバッグ、紙袋、マイバック）、利便性（消費者等）
- ② 成果・課題等の検証：消費者・協力主体への聴取、問題把握（シェアバッグ放置未返却・回転率等）、事業性評価（費用対効果）、提言等

4. 事業スケジュール・進め方

- 2月～ 事前準備（シェアバッグ・紙袋の手配、ニーズ・実態等に基づくスキーム構築、利便性の高い回収拠点設置の協力依頼 等）
- 4～5月 事前周知（各主体による消費者等に対する広報）
- 6月～ モデル事業実施（1か月間）
- 実施後 フォローアップ（事業評価・結果報告・社会実装化に向けた提言など）